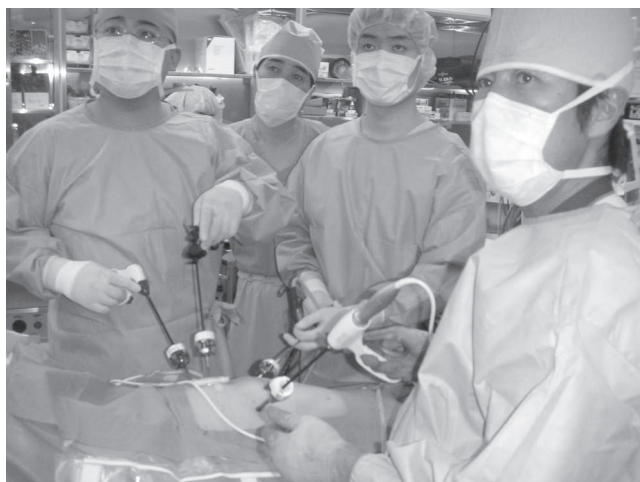


特別講演「患者に優しい手術、地球に優しい非開削技術」を拝聴して

(株)奥村組 営業本部技術営業部部長代理

和田 洋
WADA Hiroshi



やっと実現しましたね。本物の外科医の先生，草野教授から非開腹手術の話を聞くことが。

「患者に優しい手術，地球に優しい非開削技術」なんてタイトルを聞いただけで身震いがしてきます。小職がJSTT事務局長時代にも石川和秀副会長から，環境にやさしい非開削技術の啓蒙に，腹腔鏡手術と開腹手術の違いを説明すれば誰にも理解してもらえやすい，と教えられ続けていました。

まさしく開腹手術の経験者である私にとって、内視鏡で手術ができていたら、美しい(?)お腹のままでいられただろうし、ときどき襲いかかる一度切られた腹筋の痙攣に伴う痛みにもあわずに済んだことだろう、とうらやましく思うものです。

2000年3月、それは偶然見つかった。副腎から発生した血管脂肪腫を摘出するために東京大学医科学研究所付属病院に入院しました。癌ではなさそうだと診断も、そのまま放置すると癌の病床となりやすいと言われ、摘出手術を決意しました。その当時も内視鏡手術の方法もあるといわれましたが、確実なのは開削工法ということで、手術台上で全身麻酔注射をうたれ、「まな板の鯉」状態で開削施工となりました。

工事着工前の事前説明会では直線施工、L=300mm
ということでしたが、施工中に設計変更され、急曲線
施工を含むL（エル）カーブ施工、L=400mmの開削
延長となってしまいました。工事責任者の話では地中

障害物（脂肪でプヨプヨの肝臓）を避けて患部に到達するのが困難で、開削延長を延伸せざるを得なかったとのことでした。

開削部復旧後の工事写真（腹の写真）をお見せした
 かったのですが、機関誌の品格を損なうとの強い抵抗
 勢力に押され、ここでお見せできないのが残念です。
 (図参照)

さて、草野先生の話ですが、真っ先に話されたのが、お住まい付近の中原街道（国道1号線：通称第二京浜国道）は「カラスが啼かない日はあっても、道路工事をやってない日はない。」と言うくらい工事渋滞に悩まされているとこのことで地球環境に優しい非開削技術については相当ご理解されているという印象で始まりました。

患者に優しい手術とは？ できるだけ痛くない，出血の少ない，手術時間が短いなど，患者さんへの精神的，肉体的な負荷（侵襲）がより少ない手術（低侵襲手術）を意味するそうです。

1980年代後半に始まった胆石症に対する腹腔鏡手術は従来、大きくお腹を開けていた手術が内視鏡を使うことにより、鉗子という器具を腹部に挿入するための1cm足らずの切開を4箇所あけるだけで可能となり、今や優しい手術の代名詞ともなっています。(写真参照)

最近では肺，食道，胃，大腸など多くの臓器癌にも

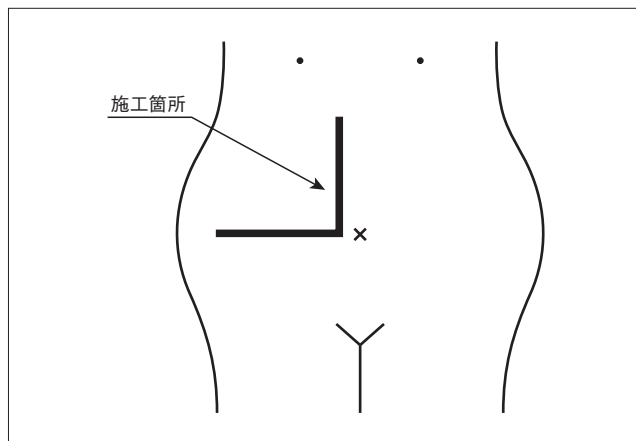


図 開削施工イメージ



積極的に行われるようになってきているようですが、通常の三次元視野である開腹手術に比べ、テレビモニターを見ながらの二次元の視野の手術であることから手術の長時間化、臓器損傷リスク、癌に対して不十分な切除ともなりかねないなど問題点も少なくないとのことでした。現在、これらの課題を克服すべく、真の患者に優しいそして安全な手術を目指しているとのことでした。

我々が聞いていても非常に解りやすいお話でしたが、動画を使ったパワーポイントは、実際の手術の様子を鮮明に描写されており、自分のお腹の中と頭でラップし、直視できない場面もありました。しかし、鉗子を使用した遠隔操作方法と比べ、直接手をお腹に突っ込んで手で探るシーンは生々しかったものの、さすが手の感触に勝るものはないことを痛感しました。

手術中にも安全第一をモットーに、勇気ある撤退（開腹へのconvert）を決断できることが大切であり、セーフティファーストが一番の優しさということでした。推進中にトラブって開削を余儀なくされる辛さとは少々違った優しさと感じました。

いづれにしても工事着工前の事前調査（診断）の大切さは外科手術も非開削工事と同じであり、工事を上手く遂行するためには地下埋設物状況や、土質状況を的確に判断できるような地下探査技術の向上が望まれることをあらためて感じさせられました。

念願かなって、今回の講演を拝聴することができ、目から鱗の状態でした。草野先生ありがとうございました。

特別講演「患者に優しい手術、地球に優しい非開削技術」

昭和大学医学部第二外科教室 草野満夫 教授
(一般・消化器外科)

患者に優しい手術とは？できるだけ痛くない、出血の少ない、手術時間が短いなど、患者さんへの精神的、肉体的な負荷（侵襲）がより少ない手術（低侵襲手術）を意味する。外科医はこの命題を古代エジプトから現在まで常に求め続けている。19世紀初頭に花岡青洲が世界で始めて全身麻酔を行なったことは優しい手術への道を大きく開いた。

優しさを追及することは外科手術ばかりでなく、多くの分野、領域に共通しており、地球に優しい非開削技術と発想、技術などかなり類似するところが少なくない。外科手術と開削という一見かけ離れた両分野だが、患者さんあるいは地球に“優しさ”を還元するという同一コンセプトから、今回の低侵襲手術の話が異領域における新たな視点、さらなる技術開発へのstep-stoneとなれば幸いである。（講演レジュメから抜粋）



略歴：昭和45年3月 北海道大学医学部医学科卒業
昭和46年4月 国立札幌病院外科
昭和48年8月 北海道大学医学部付属病院外科医員
昭和50年4月 旭川医科大学外科学第二講座・助手
昭和50年9月～51年9月 スウェーデン・ルンド大学留学
昭和60年1月 学位授与・医学博士（東京大学）
平成5年7月 昭和大学医学部外科学教室・教授

学会評議員：日本外科学会、日本肝臓学会、日本移植学会、日本腹部救急医学会、日本内視鏡外科学会、日本サイトメリー学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本臨床外科学会、日本外科系連合学会、日本リザーバー学会会長、Pan-Pacific Surgical Association - Japan Chapter 理事長